

蛙の涙

作詞 J'Soul (浅羽一)

『あああああああああああああああっっっっっっっっ！！！！！！！！！！』

叫びが記憶を引き裂き 痛みが心を蝕^{むしば}む
血まみれの蛙が舌を出す 無秩序な蠅を捕まえながら
さらけ出した嬌声が憂鬱な虫けらを呼び寄せる
水滴に弾かれた光の筋が 細かい破片に碎けて突き刺さる
身を守ろうと鏡を抱いて 不気味なその身に喉が破れた
刻まれた赤い葉が湿った地面に降り積もる
暗^{あんりょく} 緑の肌^かに黄色い涙が文字を描く
震える肩に蟻^{たか}が集る
悲鳴^{こぼ}から零れた感情の欠片が 体の外でゆっくりと重なり
知らない自分を成していく
影までがこの身に別れを告げて
振り返りもせずに去っていく
残されたものを一体何と呼べばいい…？

新月の夜に一人 泥の中で目を光らせる
カビくさい空気が音を立てて 崩壊の序曲に歌を添えた
垂れ流した涎から漂う悪臭が闇を包む
幸せに乗り損ねた星の群れが 命を燃やされ紅く空に舞う
先の欠けた爪を突き立てて 割れた牙で獲物を呑み込み
穴の空いた腹に溜まる酸に体を溶かされる

●繰り返し

毒蜘蛛の足に舌を巻き付け 不快な産毛^{つぶ}に目を瞑る
引き寄せた首筋に足を乗せ 身に宿る毒ごと口に含む
生きる為に…生きる為に毒を喰らう
そして体は醜く腐る…

『あああああああああああああああっっっっっっっっ！！！！！！！！！！』

●繰り返し